

路線バスにおける 車いす利用の現状と今後への期待

2020年9月3日

社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会

副会長 小西慶一

社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会

1. 設立年月日:昭和33年6月23日

2. 活動目的及び主な活動内容:

全国62都道府県・政令指定都市の身体障害を中心とする当事者団体と中央の障害種別団体(公益社団法人日本オストミー協会、一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会)の64団体で構成。障害者の立場から、人権の保障、社会参加の促進、すべての人の社会“Society for All”の実現をめざし活動している。障害の種別や有無にとらわれず、全国組織のネットワークをいかし、国や政党等への要望や政策提言など幅広い活動を行っています。全社協障害関係団体連絡協議会や日本障害フォーラム(JDF)の構成メンバーとしても活動している。

【主な活動内容】

- ・ 日本身体障害者福祉大会の開催
- ・ 中央障害者社会参加推進センター事業
- ・ 障害者相談支援事業及び障害者相談員活動強化
- ・ 障害福祉の向上を目的とした政策提言及び要望活動
- ・ 障害理解促進事業
- ・ バリアフリー促進のための事業
- ・ 出版活動(相談員活動事例集、相談員マニュアル等)
- ・ 機関紙の発行

3. 加盟団体数(又は支部数等):64団体(令和2年6月時点)

4. 会員数: 約1400団体(加盟団体及び関係市区町村支部)(令和2年6月時点)

路線バス利用で車いす使用者として感じている 課題や疑問

1. 車いす固定装置に関すること

- ・時間がかかることで他の乗客の方を待たせてしまうのが精神的に負担
- ・固定装置が様々で窮屈に感じたり慣れていないと不安

2. 不安を感じること

- ・走行中に大きなカーブ(特に坂道)や急ブレーキでの転倒の心配
 - ・車内アナウンスがあったりなかったり。アナウンスで事前にわかると安心
- ※車いす使用者だけに限らない

→ バスに乗ることを躊躇

路線バス利用で車いす使用者として感じている 課題や疑問

3. 疑問に感じていること

？固定方法が全国で様々。所管局間の情報共有はできているのか

？タイプ別電動車いすの使用状況の実態が不明

？高齢の方で車いすを使用する方の実態が不明

公共交通機関の車両等に関する移動等円滑化整備ガイドライン バリアフリー整備ガイドライン 車両等編／令和2年3月

- ・乗務員による車椅子使用者の乗降や車椅子の固定のための使用方法の習熟
- ・障害者等への適切な対応のための接遇研修のさらなる充実
- ・標準的な整備として車椅子固定装置は短時間で確実に様々なタイプの車椅子が固定できる巻き取り式等の構造とする。
（前向きの場合／3点ベルト、後ろ向きの場合／背もたれ板）
- ・乗務員の接遇、介助（車椅子の固定、解除、人ベルトの着脱は適切な接遇・介助によって行う。
- ・望ましい整備として、方式の多様化による乗務員の混乱を避けるため、仕様の統一が望ましい。

路線バスに係る車いす事故対策に対する 今後の期待

○ 障害者団体等とバス事業者が連携し、車いす固定装置の方策・ソフト面（接遇や障害理解・心のバリアフリー）の研修にかかる検討を継続

- * 海外での好事例等（オリパラ開催国等）を参考に検討
- * 方策の検証（さまざまな車いすでの実証実験）
- * 固定装置の全国統一

○ 地域による格差なく、具体策が地方部へ波及

- * 全国のノンステップバス整備率は目標数値約70%に対して、平成29年度末の実績約56%、大都市部の事業社で導入率100%のところがある一方で、地方部では以前と進んでいない（財政面が原因？）

○ 転倒事故を防ぐことで、安心・安全で利用しやすいバスの移動環境を整える